

かなざわ 10月号

平成29年9月29日

横浜市立金沢小学校

横浜市金沢区町屋町26-26

☎ 781-2401



本との出会い

学校長 高木 篤子

今までに、心に残る本とどのように出会いましたか。読書の秋、新たな本との出会いがあるといいですね。

小学校低学年の頃、姉とその友達に付いていき、初めて市立図書館に行きました。今思うと、こじんまりした図書館だったのですが、子どもの私には目の前に本の世界が広がりました。窓際に一人で座って読んだ本「ロボット・カミイ」を今でも覚えています。

懐かしい表紙絵を見ながら、本を読み返してみました。粗筋は忘れていたのですが、子どもの目線で楽しく読めました。当時の私は、どの場面が気に入っていたのでしょうか。

学級担任をしていた頃、時々教材を探しに児童図書館に行きました。図書館の方の親切な対応とともに、休日の市立図書館で見かけた心温まる風景が印象に残っています。

靴を脱いで上がる絵本コーナーで、若いお父さんが小さな子に昔話の紙芝居を読んで聞かせていました。お父さんは一文を読むごとにお子さんの顔を見て反応を確かめ、共にうなずきながら紙芝居を読み進めていました。一生懸命なお父さんの姿と、嬉しそうに紙芝居とお父さんの顔を見上げるお子さんの姿が何ともほのぼのとしていました。

本校の学校図書館（図書室）には5年前から学校司書が配置され、寺嶋さんが本の管理や環境整備、授業を含めた読書活動への支援などを行っています。休み時間に図書室で子どもたちを迎えて、優しく言葉をかけてくれています。

また、PTAによる図書ボランティアの皆様には、本の修理や季節に合わせた飾りなど、図書室の環境を整えていただいています。PTAと地域の方による読み聞かせボランティアの皆様には、毎月、朝の読み聞かせを全学級で行っていただいています。夏休みにも、よい雰囲気の中で多くの児童が読み聞かせを楽しむことができました。

子ども一人一人、それぞれ本との出会い方があると思います。おもしろそうだな、読んでみたいという気持ちをもてるようなきっかけづくりを考えてみましょう。学校で、家庭で、読書の秋がより充実しますように。

人生の中で読書に夢中になる時期は人それぞれですが、特に、子どもの頃に出会ったお話や、夢中になった登場人物の生き方は、その人の原風景となり、一生を通じた財産になる気がします。

紙やインクの匂いとともに、夢中になってページをめくる至福の時。金沢小の子どもたちにもそんな体験をしてもらいたくて、ボランティアの皆さんや図書委員の児童と共に、使いやすく、居心地のよい図書室をめざしています。



学校司書 寺嶋 佳枝